国土交通省　東北地方整備局
青森河川国道事務所
Aomori office of river & National highway

記者発表
Press Release

令和２年　９月２９日

「馬淵川放水路」が土木学会選奨土木遺産に認定されました
～馬淵川の治水と八戸市の発展の礎～

◆　多くの水害の原因となっていた大きく湾曲した河口部を改善し、
北東北有数の産業都市である八戸市の発展の礎となった貴重な土木遺産　◆

◇土木学会選奨土木遺産は、土木遺産の顕彰を通じて歴史的土木構造物の保存に資することを目的として、平成１２年に認定制度が設立されており、この度、「馬淵川放水路」が土木学会より認定されました。

◇馬淵川はかつて河口近くで大きく湾曲し、支川の新井田川と河口で合流していたため、氾濫による水害が幾度も発生していましたが、「馬淵川放水路」の完成により河口付近の氾濫の可能性が解消され、また、北東北有数の産業都市である八戸市とその周辺地域の発展に大な役割を果たしています。

◇今般の認定を受け、青森河川国道事務所では、治水効果のみならず地域の発展にも寄与してきた「馬淵川放水路」の歴史的役割を多くの方々に理解・関心を寄せていただくことにより、馬淵川に対する愛護意識の醸成が図られることに期待しています。

＜認定概要＞
○名　　称：馬淵川放水路（まべちがわほうすいろ）
○認定年月日：令和２年９月１８日
○完　成　年：昭和２５年（昭和１５年着工）
○推　薦　者：八戸工業大学　教授　金子賢治　氏
○認 定 理 由：多くの水害の原因となっていた大きく湾曲した河口部を改善し、北東北有数の産業都市である八戸市の発展の礎となった貴重な土木遺産

※詳細については土木学会のＨＰをご覧下さい。
（http://www.jsce.or.jp/contents/isan/）

※青森河川国道事務所ＨＰの選奨土木遺産に関するページもご覧下さい。
（http://www.thr.mlit.go.jp/aomori/river/topics/dobokuisan.html）

《発表記者会：青森県政記者会、建設関係専門紙、津軽新報社》

お問い合わせ先

国土交通省　東北地方整備局　青森河川国道事務所
青森市中央三丁目２０－３８　　tel 017-734-4521（代表）
副所長（河川）　櫻井　隆広　（内線 204）
調査第一課長　　花田　一二　（内線 351）

＜ 参考資料＞

○ 選奨土木遺産とは

土木学会選奨土木遺産の認定制度は、土木遺産の顕彰を通じて、歴史的土木構造物の保存に資することを目的として平成12年度に創設されました。

土木学会としては、その結果として、

1. 社会へのアピール
（ 土木遺産の文化的価値の評価、社会への理解等 ）

2. 土木技術者へのアピール
（ 先輩技術者の仕事への敬意、将来の文化財創出への認識と責任の自覚等の喚起 ）

3. まちづくりへの活用
（ 土木遺産は、地域の自然や歴史・文化を中心とした地域資産の核となるものであるとの認識の喚起 ）

4. 失われるおそれのある土木遺産の救済
（ 貴重な土木遺産の保護 ）

などが促されることを期待しています。

以上、土木学会HPより引用
（http://committees.jsce.or.jp/doboku_isan/）



馬淵川放水路

馬淵川放水路

○馬淵川放水路の概要

【放水路開削以前の状況】

・馬淵川と新井田川は、それぞれが直接太平洋に注ぐ河川でしたが、馬淵川河口の沖合に漂砂による前浜が発達し、河口閉塞を繰り返すうちに、新井田川と河口付近で合流し太平洋に注ぐようになりました。

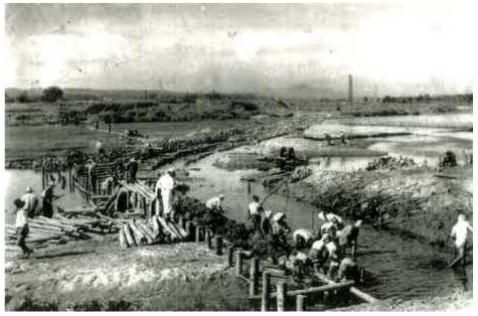
・馬淵川と新井田川が合流した河口部は、両川の洪水流が押し合うことから、洪水の常襲地帯となっていました。



昭和15年9月洪水　大橋

【放水路開削の経緯】

・昭和10年：旧内務省が馬淵川改修計画を策定
・昭和12年：馬淵川改修事務所が開所
・昭和14年：河口付近の高度利用と洪水の安全な流下を図るため、新たに放水路を開削し、馬淵川と新井田川を完全分離する改修計画に変更
・昭和15年：放水路開削事業に着手
・昭和25年：旧馬淵川の締切堤防が完成し、放水路へ通水開始
・昭和30年：床固めや樋門、橋梁などの工事が完成し、馬淵川放水路が全面完工



昭和25年　馬淵川の放水路工事状況

馬淵川放水路整備の結果、形成された河口付近の馬淵川と新井田川の三角地帯は洪水常襲地帯から解消され、八戸臨海工業地域として八戸市発展の基礎となりました。

